文責　川上地区幹事　小林

知っていますか？母校校歌の作詞・作曲者

北原　白秋　・・・　高尾小

日本を代表する詩人・童謡作家・歌人、本名は北原隆吉。福岡県柳川市出身(実家は商家・酒造業)明治37年頃、地元の中学を退学し早稲田大学英文科予科に入学、上京後、同郷の若山牧水と親しく交わる。明治39年頃から与謝野晶子、石川啄木らと知り合う。
中略、大正7年頃より小田原に転居し、優れた童謡作品を月次と発表した。昭和11年2月逝去。享年57歳。墓所は多磨霊園にある。
代表作　詩集・歌集(省略)
　　童謡　ゆりかごの歌、砂山、この道、ペチカ、待ちぼうけ、城ケ島の雨　等
校歌等は40作品程、山田耕作(作曲)との共作が多い。関西学院大学校歌、大正大学校歌、同志社大学校歌、駒沢大学校歌、高校・中学は１２校程、小学校の校歌は地元の柳川市内の小学校や、川崎市立川崎小学校、港区立高輪台小学校、世田谷区立桜小学校、墨田区立業平小学校、新潟県内は高尾小学校の他、魚沼市立伊米ケ崎小学校がある。

弘田　龍太郎・・・高尾小

高知県安芸市生まれ、明治４３年東京音楽学校(現東京芸術大学)ピアノ科入学、文部省唱歌「鯉のぼり」は作者不詳とされていたが、弘田が在学中に作曲したものと言われている。
北原白秋と組み、多くの童謡を作曲した。晩年は長女夫婦が創設した幼稚園の園長となり、放送講習会、リズム遊びの指導にあたる。６０歳で死去。
代表作　鯉のぼり、浜千鳥、叱られて、雨、雀の学校、春よこい、靴が鳴る、千曲川旅情の歌

※なぜ日本を代表する詩人・童謡作曲家が高尾小の校歌を？由来は岡会長や高尾地区の方々から

小山　直嗣　こやま　なおつぐ　・・・宇津小・原小・川上小・牧中・牧村民歌

１９１２年、旧清里村生まれ、本名　直治、新聞記者を経て著述業、日本口承文芸学会、日本詩人連盟、日本音楽著作権協会会員。
上越市の作詩家、故小山直嗣氏は100校を数える校歌の作詞や、民話・伝説の採集で広く知られる人です。
松代中学校校歌、高田工業高校旧応援歌、赤倉音頭等も作詞しています。
小山氏の著書　新潟県伝説集成　上越編の中の牧村の部分には、宇津俣の「雪太郎」、柳島の「鶴巻田」、宇津の俣地区?の白峯山(しろふさん)の耳白(みみしろ)小人・・安塚町小黒の専敬寺(せんきょうじ)に弟子入りした凶暴な盗賊の話。旧小平村・旧神谷村の弘法清水の伝説が掲載されています。

小山 郁之進・・・宇津小・川上小・牧村民歌

１９１１年生まれ、ピアノの先生(多くの音楽大学等の学生・先生が師事しています)。県内の小中学校や、県立新潟東工業高校、県立豊栄高校等の校歌も作曲しています。

著書　今様・わらべうた

関根　ふみと　・・・牧小

県内小学校校歌、都はるみ　交通安全音頭　みんなの願い、新発田市歌、長崎浜市慕情等

田辺　辰雄　・・・牧小

小千谷市立和泉小学校、旧大和町大崎小学校校歌等

市川　牧人　・・・沖見小

高柳中学校、県立松代高校校歌等

上越郷土研究会編『頸城文化』の投稿に（松苧神社の七ツ祭り、市川牧人)が有りますので、旧松代町の出身の方と思われます。詳細は松代町の方から

高田　守久　・・・沖見小

県立松代高校、品川区立城南小、調布市立小、豊島区立目白小学校校歌等

小杉　誠治　・・・原小

教育者　糸魚川市下早川出身　元三条市立井栗中学校長

吉川町立吉川中学校、長岡市立越路中学校、新潟市立木戸中学校、県立高田南城高校等

大給　正夫　おおぎゅう　まさお　・・・牧中

ピアニスト、北海道北見市出身、新潟大学・福井大学助教授、愛媛大学教授、昭和５６年退官名誉教授に、新潟県内小中学校校歌、板倉中、高田盲学校校歌等

相馬　御風　そうま　ぎょふう　・・・沖見小・最初の牧村民歌

早稲田大学校歌「都の西北」、日本初の流行歌「カチューシャの唄」、童謡「春よこい」・・・、今も日本中で愛されている名曲の作詞者が糸魚川が生んだ文人・相馬御風です。

御風は、明治・大正・昭和の三代にわたり叙情歌人、詩人、随筆家、小説家、自然主義評論家、作詞家と、文芸全般にわたって活躍しました。

明治 39 年、早稲田大学を卒業し、片上天弦らとともに早稲田文学社に入り「早稲田文学」の編集を担当。当時、全盛をきわめた自然主義文芸運動の先鋒として、文芸評論の面で活躍しています。その一方で、三木露風、野口雨情らとともに早稲田詩社を結成し、「口語自由詩」を提唱し、自由な言葉とリズムによる新しい詩のメロディーを主張しました。

また、同 40 年には早稲田大学創立 25 周年に際し、大学や恩師に委嘱されて作詞した校歌「都の西北」は不朽の名作として今も歌い継がれています。

北は北海道から南は鹿児島県まで、200 校を超える校歌を作詞した相馬御風。これほど多くの校歌を手がけた人物(おそらく右に出る者はいない?)はなかなか見あたりません。

新潟県内の小中学校の校歌、函館水産高校から鹿児島商業高校校歌まで。凄い!!

早稲田大学の校外施設が旧松代町にあるのも、早稲田大学の応援団・チアリーダー・吹奏楽団が糸魚川市に夏季合宿に来るのも、御風を思ってです。５年前ハンカチ王子こと、齋藤投手を主戦とする早稲田実業高校の校歌(御風 作詞)が何回甲子園に流れた事か!。

童謡　春よこい　は雪解けを待ちわびる新潟県人の気持ちを表した歌ですね。

最後に、文部省唱歌　故郷を作詞した高野辰之は、長野県豊田村(現中野市)出身です。地元長野だけでなく、妙高高原、関田峠や牧峠を越えて、米山・日本海・高田平野を見渡せる風景もイメージに描きながら作詞したものと想像されます。